

令和4年度報告分 若桜町介護保険事故報告事例

| 番号 | サービス種別 | 対象者 | | 種別 | 事故内容 | 事故発生時間帯 | 事故発生場所 | 事故発生時の対応 | 事故発生後の対応 | 事故の原因分析 | 再発防止策 |
|----|----------|------|------|----------|---|-------------|--------|--|---|---|---|
| | | 年代 | 要介護度 | | | | | | | | |
| 1 | 介護老人福祉施設 | 90歳代 | 要介護4 | その他(骨折) | 居室より大声あり離床。その際に右肩痛訴えあり。 | 14:00～14:59 | 居室(個室) | 痛みの有無確認(右肩痛を強く訴えあり)、外傷確認(右肩に腫脹あるが熱感なし)、バイタル測定。15分後、強い痛みの訴えが持続しているため、看護師に確認後、鎮痛剤服用。 | 翌日、右腕に内出血・腫脹・熱感あり、痛み増強。救急搬送・受診。右上腕骨近位部骨折。家族に連絡。 | 骨粗しょう症の既往歴があり、整形外科医の所見(骨がスカスカで手術は難しい)のとおり、骨強度が低下しており骨折しやすい状態であった。 | 骨粗しょう症がある方の介助方法(介助動作)の見直し。スタンディングリフトやスライディングシートなどの福祉用具や福祉機器の使用選定基準の見直し。 |
| 2 | 介護老人福祉施設 | 70歳代 | 要介護4 | 不明 | 朝、立位前に腰の痛みの訴えがあったものの、立位安定しており痛みの訴えなし。その後も痛みの訴えはなかったが、夕方より再び痛みの訴えが続いた。 | 9:00～9:59 | トイレ | 10時の巡回時に看護師に腰痛ありと報告。日中は痛みの訴えなかったため様子観察。夕方、再び痛みの訴えあり、医務に確認し薬剤塗布、薬服用。 | 整形外科受診。腰椎圧迫骨折。家族に連絡。 | 移乗やトイレで軽介助を行っているが、車椅子等への移乗時に勢いよく座ることがあり、腰への負担が積み重なっていたと思われる。汚染多く車椅子に座布団等クッションとなるものが敷かれていなかった。 | 車椅子に座る際は、ゆっくり座るよう声掛けし、手を添えて腰に負担がかからないように座ってもらう。車椅子にクッション性のある座布団を敷くようにする。 |
| 3 | 介護老人福祉施設 | 70歳代 | 要介護5 | 誤薬、与薬もれ等 | 服薬介助を介護士で行うよう指示あり。薬がこなかったため、看護師に確認し、薬箱を持って上がった。介護士に薬の確認作業を依頼しようとしたがトイレ案内中であったため、一人で確認作業を行った。服薬介助を行った後、翌日朝の薬であったことに気づいた。 | 16:00～16:59 | 食堂等共用部 | 看護師に報告。様子観察とバイタル測定。 | 看護師から嘱託医へ報告、問題ないが様子観察の指示あり。家族へ報告・謝罪。翌日、窓越しで面会してもらい、様子を確認してもらった。 | 薬の確認作業は服薬を行う職員以外の介護職員が行うことになっていたが、服薬を行う職員が一人で確認してしまった。また、誤薬防止のため、薬袋には朝・昼・夕で色の違うラインが引いてあり、「朝食後」等書かれていたが、夕食後の薬だとの思い込みがあり、名前のみを確認していた。服薬前に名前のみ見ており、時間帯の区分と薬袋の名前を声に出して読み確認してなかった。 | 服薬介助を始める前に薬箱と薬袋に書いてある時間帯の確認を行う。薬の確認作業は、服薬介助を行う職員以外が必ず行う。確認者が空かない場合は業務の交替を行う。与薬する前後と与薬時には、利用者の名前、時間帯の区分、薬袋の名前を声出し確認するよう再度徹底する。 |

※ 若桜町の被保険者に係る報告(町外の介護サービス事業所を含む)